



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

#### Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101  
Facsimile: (045) 222-1103  
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

FAO（国際連合食糧農業機関）日本事務所  
2010年9月24日

LOJAPR10/26-No. 175

## プレスリリース

### 食料価格の不安定性は、食料安全保障に対する主要な脅威である しかし世界的な食料危機の兆候はない

2010年9月24日、ローマ-FAO加盟国75カ国以上から参加した専門家は、24日、現状に満足する根拠はないとしながらも、差し迫った世界食料危機の兆候はないという点で意見の一致を見た。彼らは食料価格の不安定性を押さえ、関連するリスクを管理する新たな手法を研究することを提案した。

ローマにおける終日の特別会合を終えて、専門家は予期しない価格急騰は「食料安全保障に対する主要な脅威」であることを認め、その根底にある原因に対処するための更なる取組みを推奨した。

穀物およびコメに関する国家間グループ(IGGs)からの提言は、FAOが国際小麦価格が7月から60-80%高騰し、トウモロコシは約40%急上昇したことを示す報告書を出すのと同様に行われた。

#### 世界的な需給は均衡している

会合では、「世界的な穀物需給は依然十分均衡しているように見受けられる」ことが確認され、更に「最近の国際価格の急騰や今も続く著しい価格の不安定性は、国際市場のファンダメンタルズというよりは、主要輸出国のいくつかにおける予期しない不作、それに続く一部輸出国における対応措置の実施、投機的行動が主な要因である」とされている。

不安定性の根底にある原因として、会合は「外部市場との関連の増大、特に先物市場における『金融化』の影響」を挙げている。その他の原因として、穀物需給の情報の不足、市場の透明性の不足、国家食料安全保障状況、衝動的買い付け、買いだめによる予想外の変化などが挙げられた。

#### 取り組みの代案

会合では、「食料価格の不安定性を緩和する取り組みの代案」及び「透明性を強化し、市場の不安定性の新たな原因に関連するリスクを管理する新たなメカニズム」を探求することが推奨された。

これらの課題のいくつかは、FAOが事務局を務める次回世界食料安全保障委員会(CFS)において検討される予定である。

IGGによるその他の提言には、FAOの情報収集、提供機能を全ての段階で強化することが含まれている。会合は、作付意向、生育状況、国内市場情報及び非商業的投機家の関与を含む先物市場動向の様々な側面の監視などの分野での能力強化を促した。

結論として、会合は、FAO加盟国によって主催された 2009 年食料安全保障に関する世界サミットにおいて、FAO加盟国は「世界、地域及び国家の食料安全保障に悪影響を及ぼすWTOの規則に反する措置を避ける」ことに合意したことを想起した。

### **穀物見通し**

最新の穀物価格上昇のデータは、24 日発表された穀物需給見通しに関するFAOの四半期ごとの報告書である穀物見通しと食料事情に掲載されている。

見通しでは、2010 年の世界の食料生産は 22 億 3,900 万トンと予測し、前年比で 1%少ないのみで、史上 3 番目の高水準であるとしている。独立国家共同体(CIS)諸国における不作が減少の主因である。

小麦(60－80%)やトウモロコシ(40%)における価格の急騰に比べ、コメの価格は 7 月から 9 月までの間に 7%しか上昇していないと報告書は述べている。しかし、このような高水準でも、穀物価格は 2008 年の最高値に比べると 3 分の 1 ほど低いとFAOは指摘している。

### **穀物輸入コストの上昇**

報告書は、低所得食料不足(LIFDC)グループに属する世界の最も貧しい 77 カ国における穀物輸入代金の予測は、国際価格の上昇の結果として、2009－10 年に比べ 8%増加の 2 兆 7,800 億ドルであると予測した。

国際小麦価格の上昇により、最も打撃を受けたのは小麦を主食とする輸入国であると報告書は述べている。これらの諸国には近東及び北アフリカ、特に世界最大輸入国であるエジプト、CISアジア及び南アメリカが含まれる。国際小麦価格上昇の影響の消費者への影響は、国ごとに実施されている政策によると報告書は述べている。

### **すべての国が小麦価格上昇の打撃を受けたわけではない**

穀物見通しと食料事情によれば、過去 2 ヶ月の価格上昇は一律ではなく、現地の状況により、一部の国では価格は急騰したが、他の国では下がった。

小麦及び小麦粉の価格は、アフガニスタン(平均 24%)、モンゴル(23%)、タジキスタン(22%)、バングラデシュ(21%)、キルギスタン(19%)、パキスタン(9 月初週に平均 8%)など、既に一部のLIFDCでは 7 月及び 8 月に顕著に上昇した。

ラテンアメリカでは、現在のところ小麦粉の価格は全般的に安定している。モザンビークでは、深刻な内紛の結果、9 月初旬のパンの統制価格の 30%引上げが政府によって撤回された。

### **サハラ以南アフリカ**

全般的に、トウモロコシ及び他の粗粒穀物が主食のサハラ以南アフリカにおいては、小麦輸出価格の上昇による直接的な影響は少なかった。東及び南部アフリカでは、2010 年の豊作を反映して、穀物価格は下落し、食料価格危機以前の水準以下となっている。主要な例外はスーダンで、最近の下落にもかかわらず、主食であるソルガムの価格は高水準にとどまった。

西アフリカでも、9月初旬に価格は下落したが、特にニジェール及びチャドの一部で高水準にとどまった。アジアでは、地域の主食であるコメの価格動向はまちまちであった。バングラデシュ及びベトナムでは、コメの価格が8月及び9月初旬に上昇したが、フィリピン、タイ、スリランカでは下落した。中央アメリカでは、主食であるトウモロコシの価格は7月に若干上昇したが、2年前に比べて低い。

英文URL: <http://www.fao.org/news/story/en/item/45690/icode/>